

実務知識問題（サンプル）

【問3】 コンプライアンスの違反行為時の対応に関する次の文章のなかから、不適切と思われるものを一つ選択してください。

- 1 社員がコンプライアンスに違反している事実、または違反している疑いがある事実を知ったときは、見過ごすことなく、管理者・経営者に報告・相談する体制や風土が重要です。そのためには内部通報制度があり、かつ、通報者が不利益を被らないように保護することが大切です。
- 2 内部告発は、会社のなかでは密告制度ということになるため、なかなか定着は困難です。従って、内部通報制度を導入するよりも、違反事実の発見は、現場の管理者の役割と責任と位置づけます。現場管理者が部下の行動を日々細かくチェックし、コンプライアンス違反行為がないかを監視することが決め手となるのです。
- 3 内部通報がなかなかできにくい、あるいは効果がない場合には、外部の弁護士事務所などに依頼し、外部第三者機関への通報制度（＝コンプライアンス・ホットライン）を設置し、内部からの通報をやりやすくすることも重要です。コンプライアンス違反事実は早期発見、早期対処が重要なのです。
- 4 今までに不祥事を起こしている企業の多くは、ほとんどの場合、現場において「こんなやり方はおかしい」との声がありながら、その声は小さく、全社的な問題の指摘には至らなかったということです。企業のあり方としては、コンプライアンス違反行為をいかに早期に発見して、早い段階で経営トップに報告され、原因の究明と再発防止に、できるだけ早い段階で取り組むことが重要です。

実務知識解答・解説（サンプル）

【問3】 正解 2（不適切）

2（不適切）現場の管理者が監視することには限界があります。また、現場の管理者自身がコンプライアンス違反行為を行うこともあり得ます。早期発見を促進するためには管理者のきめ細かい管理も大切であり、かつ内部通報も大切です。

会社名 ○○不動産株式会社 流通営業部

実施日 2012年〇月〇日

対象者 仲介営業従事者 入社6年未満 65名

○テストの採点結果

カテゴリー別・項目		今回の結果			業界平均 (1,618名)	差異
		正解	受験	得点		
1	基本法令、コンプライアンス、守秘義務	33	65	50.77	59.23	△ 8.5
2	マーケット知識、集客、材料発掘	51	65	78.46	86.15	△ 7.7
3	反響対応、ビジネスマナー	23	65	35.38	43.15	△ 7.8
4	面談の力、案内、クロージング	48	65	73.85	59.19	14.7
5	物件調査	50	65	76.92	67.19	9.7
6	媒介業務、法令、契約行為	38	65	58.46	68.81	△ 10.4
7	重要事項説明、決済、登記	40	65	61.54	74.75	△ 13.2
8	建築に関する基礎知識	35	65	53.85	69.01	△ 15.2
合計		318	520	61.15	65.94	△ 4.8

○採点結果と業界平均との比較

